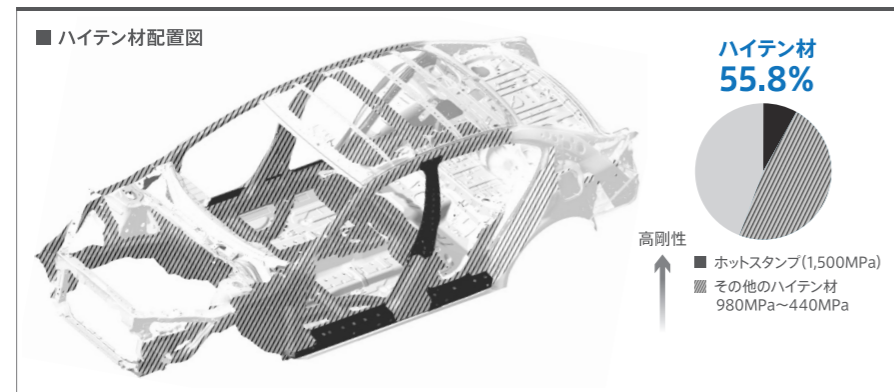
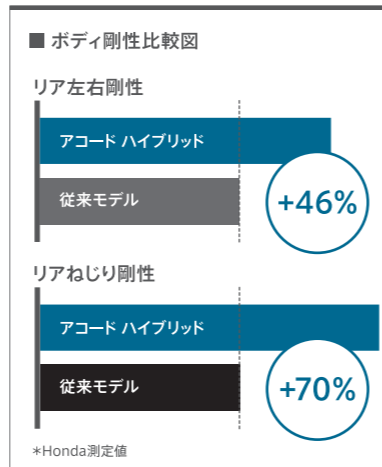
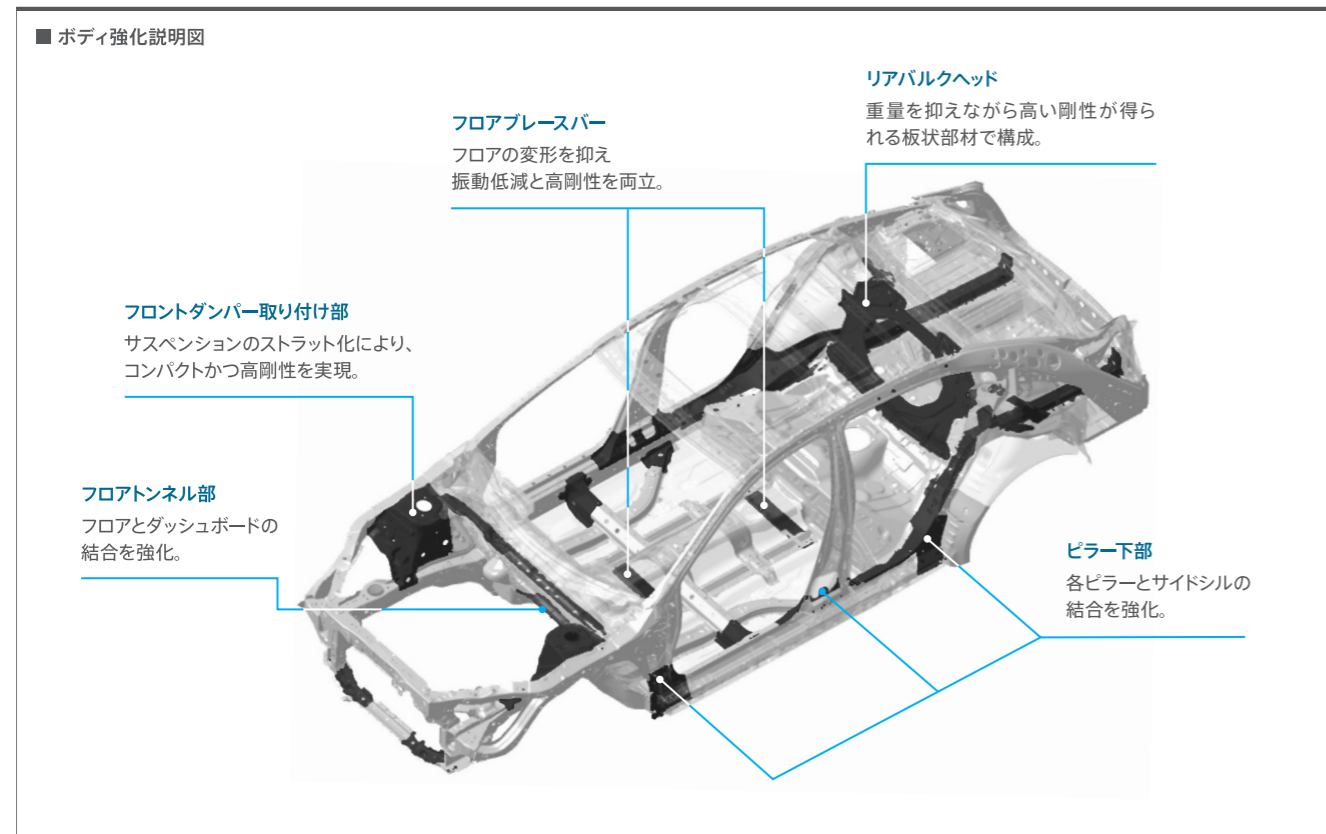


爽快な走りの基本性能 軽量、高剛性化

従来モデルと比較し、曲げ剛性を36%、ねじり剛性を53%向上。
動剛性においても、ハンドリングの応答性に影響するフロント左右剛性を29%高め、リアタイヤの接地感や乗り心地に関わるリア上下剛性を25%向上させました。
さらに、リア左右剛性においても46%、リアねじり剛性も70%向上させ、コーナリング時におけるリアサスペンションのジオメトリー変化を抑制。
フロントまわりをさらに強化しながら、リアまわりの剛性を大きく高めたことで、ハンドリングと乗り心地を高い次元で両立させています。 ※比較数値は従来モデル比 Honda測定値。



さらに、高強度なハイテン材の使用比率を、ボディ骨格全体の55.8%まで拡大。加えて、780MPa級や980MPa級、ホットスタンプと呼ばれる1,500MPa級といった、より高強度なハイテン材も新たに採用しました。この結果、軽量な骨格を実現しながら、衝突安全性の向上にも貢献しています。



燃費性能と静粛性を向上 空力性能

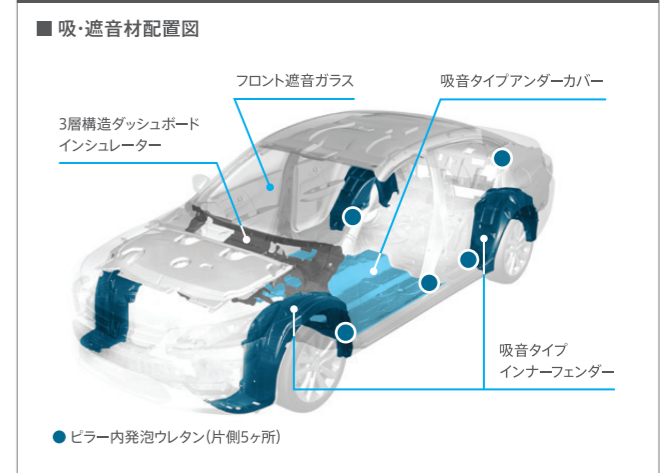
ボディの前後を絞り、中央を張り出させたバレルシェイプのボディとしたほか、ボディ下部にエンジンアンダーカバー、フロアアンダーカバーを設置することで空力性能を向上。
燃費性能と走行安定性を高めました。さらに、フロントピラーとフロントガラスの段差を小さくしてサイドへの風をスムーズに流すことで、優れた静粛性も獲得しています。

移動空間のクオリティをさらに高める静粛性

ボディやシャシーの剛性を高めてノイズの原因となる振動を低減した上で、効果の高い防音材、遮音材を厳選して効率的に配置。アクティブサウンドコントロールも併せて採用し、重量増を抑えながら、優れた静粛性を実現しました。

効率的なノイズ対策

空力性能向上のために採用したフロアアンダーカバーに吸遮音効果を持たせ、ロードノイズがフロアを通じて車内に侵入するのを抑制。フロントガラスは、遮音フィルムを挟んだ遮音ガラスとし、エンジンフード経由で車内へ伝わるエンジンノイズも低減します。ホイールハウスにはフロント、リアとも吸音構造のインナーフェンダーを採用したほか、ロードノイズの伝達経路となるピラー内部には発泡ウレタンを仕込むなど、重量増を最少限に抑えた、効果的なノイズ対策を施しました。



アクティブサウンドコントロール

音響制御技術アクティブサウンドコントロール(こもり音低減機能)を採用しました。室内前後に配置したマイクロホンへの入力から不快な音の周波数を特定。それを基に、逆位相の打ち消し音をオーディオスピーカーから出力することで、静粛性を高めました。

